



ANNUAL REPORT

2012 - 2013

NPO法人ETIC.

数字で見る、ETIC.20年の活動

1993年の活動開始より、今年で20年目になるETIC.の活動を紹介します。

スタートアップ・新規事業など
イノベーションの現場への若者人材コーディネート数

5510人

*1

20年のインターンシップ事業と、若者がチャレンジする現場へのさまざまなマッチング事業を通じて、プロジェクトに志ある若者をイノベーションやチャレンジの現場に送り込みました。

アントレプレナー・インターンシップ・
プログラムからの起業家輩出数

150名
約2800人

*2

(インターンのこれまでの参加者数)

20代で起業家とともに社会に価値を出す実践を通じて、
多くのOBOGが起業家としてチャレンジをしています。

社会起業家育成輩出育成数

340名

*4

うち事業継続率が93%

社会起業家、という存在を、日本で広めることに、ETIC.は1つの役割を果たしました。今も日本、そして世界の課題解決やイノベーション創出の現場で活躍する社会起業家が、ETIC.との関わりから生まれています。

プログラム参加者数

11万人

*5

今では年間30本以上も行われている各種プログラム。

卒業生同士やメンターとの繋がりは、

日本における起業家精神を持つ人材の大きな生態系を形成しています

東北への右腕人材の送り込み **160名** 以上

東北への定着率 **51%** (社会人)

右腕派遣後起業数 **8人** *3

2011年の東日本震災の発生に対し、ETIC.とETIC.の卒業生や仲間たちとともに、復興支援に取り組んでいます。詳細は、P20-21をご参照ください。

*1:1997年～2013年度までの実績 / *2:株式会社、NPO法人の代表、または設立にあたって中心的な役割を果たした者
/*3:派遣期間終了94名のうち、35名が「継続雇用」「起業」「東北の他の復興現場での転職」の形で継続的な担い手に。
復学を除いた社会人の定着率は51%。/*4:社会の課題解決を主目的とした活動に従事する者/*5:1993年～2013年度までのコーディネート+セミナー参加や起業支援プログラムなどすべてを含む実績

ETIC.20年の歩み

1993年04月

早稲田大学にて、起業家を目指す学生が集まり、勉強会とし

1994年03月

起業を志す関東近県の大学生を中心に、「学生アントレプレ

1994年05月

「就職ちょっと待ったシンポジウム」を開催、約200人の学

1995年05月

全国縦断「若者会社をつくろう」セミナーを開催（経済産業省委託事業、~1999年2月）

1997年03月

日本初のベンチャー企業での長期実践型インターンシップフ

1997年06月

「ベンチャー企業におけるインターンシップの普及に向けて」調査研究実施（中小企業庁委託事業）

1997年06月

事務局機能の拡大にともない、事務局の名称を「ETIC.（エティック）」に統一。学生団体からNPO登

1998年07月

日経事業出版より『インターンシップ活用術』を出版

1999年04月

インターンシップにおける大学との協働や講演活動を開始（早稲田大学や中央大学など）

2000年03月

経済企画庁（現内閣府）よりNPO法人（特定非営利活動法

2001年12月

社会的課題に挑戦する起業家を支援するため「ETIC.ソーシ

2002年04月

日本初の社会的課題に事業で取り組む若者のためのソーシャ

2002年06月

日本初のソーシャルアントレプレナー育成プログラム「NECソーシャルアントレプレナー育成プログラム」開設

2003年11月

第2回パートナーシップ大賞にてパートナーシップ賞を受賞（主催:NPO法人パートナーシップ・サマーワークス）

2004年04月

若者の挑戦の連鎖を全国に広げる「チャレンジ・コミュニケーションズ」

2005年10月

『好きなまちで仕事を創る - Address the Smile』を出版（TOブックス）

2006年01月

『第一回JNB新事業創出大賞 経済産業省大臣賞』受賞』

2006年10月

全国のインターンシップ検索サイト『PROJECT INDEX』をOPEN

2007年08月

現役インターン生の成長を加速させるギャザリング型研修「STARTLINE（8月）」「GEAR CHANGE（10月）」開催

2008年09月

全国から集まった長期実践型インターンシップのプロジェクトを表彰する、『第1回 地域若者チャレンジアワード』開催

2010年01月

「戦略的休学のススメ！」開催

2010年04月

NEC社会起業塾に、横浜市、花王がオフィシャルパートナーとして加わり、社会起業塾イニシアティ

2011年03月

東北地方太平洋沖地震を受け、震災復興リーダー支援プロジェクト

2011年05月

地域課題解決型事業に取り組むリーダーへボランティア人材を派遣する「右腕派遣プログラム」開始

2012年03月

内閣府地域雇用創造事業『ソーシャルベンチャー・スタートアップマーケット』にて95人の社会起業家が登壇

2012年03月

内閣府地域雇用創造事業『ソーシャルビジネスインターンシップ』終了。1,478人が参加。

2012年08月

経済産業省より「产学連携によるインターンシップのあり方に関する調査」を受託。報告書および中間報告書を提出

2013年05月

ソーシャル・NPO・ベンチャー系求人サイト「Drive（ドライブ）」

てスタート

ナー連絡会議」が発足

生を集める。通算200回を超える起業支援セミナー・勉強会を主催開催。

プログラム「アントレプレナー・インターンシッププログラム」をスタート

事業体へ移行。

人) 認証

ヤルベンチャーセンター」を設立

・ルベンチャ・ビジネスプラン・コンペティション「STYLE」を開催

「学生NPO起業塾」開始（現在は社会起業塾イニシアティブとして開催）

ポートセンター）

「イ創成プロジェクト」を経済産業省委託事業として開始

（11月）『CROSSROAD（3月）』開始

ンジ大賞』開催

ブをスタート。

ジェクト開始

『家を支援

小企業向けノウハウブックを作成（～2013年3月）

イブ）」がオープン！

プログラム卒業生紹介



小室淑恵さん

株式会社ワーク・ライフバランス 代表取締役社長
EIP1期生/EIP受入企業

企業の残業を減らし、売上をあげる「働き方見直しコンサルティングを900社以上に提供」

今の自分があるのは、ETIC.に出会い、ネットエイジにインターンしたおかげです。今も大切にしているビジネス哲学「120%理論」を学びました。当時、最初に与えられた仕事を「こんな仕事?」と思ったものの、やってみると非常に難しい。そこで全力でその仕事に向かったところ、どんどんやりたい仕事を与えられるようになりました。人生において120%理論を継続し続けてきた結果2006年に起業することが出来、今は7年間ずっと増収増益で来ています。感謝してもしきれません。



川添高志さん

ケアプロ株式会社 代表取締役
EIP4期生/EIP受入企業/社会起業塾イニシアティブ2008メンバー

「ワンコイン検診」と「24時間訪問看護」

高校の時から起業を目指していた僕は、大学1年でETIC.に出会い、インターンを経験しました。そして、起業後に社会起業塾で再会しました。ETIC.は僕にとって起業の滑走路でした。



牧大介さん

株式会社 西粟倉・森の学校 代表取締役
STYLE2003

林業及び山村の経済構造の変革

自分が実現していくべきことは、林業のイノベーションなんだということがSTYLEで明確になりました。多くの人の前でプレゼンをして約束し、それから今までたくさんの人たちが応援してくださいました。覚悟を決めて楽しくがんばってます。



村田早耶香さん

NPO法人かものはしプロジェクト 共同代表
STYLE2003/社会起業塾イニシアティブ2003メンバー

子どもが売られない世界を作るための事業

当初は人脈も経験も無いが、想いだけはある学生でした。ETIC.さんと出会い、様々な方からアドバイスを頂き、事業内容をブラッシュアップすることが出来ました。また、沢山のメンターと出会うことができました。

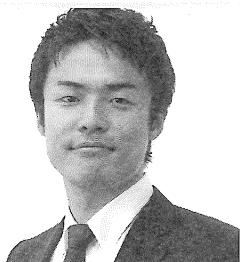


中村俊裕さん

コペルニク 代表
ソーシャルベンチャー・スタートアップマーケット第1期

テクノロジーで貧困削減に貢献する事業

事業は開始していたが、規模は非常に小さく、モデルの細部も改良の余地が非常に多くありました。また、知名度が非常に低い時代でしたが、ETICの方々の支援が引き金となって、他のパートナーシップにもつながっていきました。



小沼大地さん

NPO法人クロスフィールズ 代表理事
社会起業塾イニシアティブ2011メンバー

企業人が新興国でのNPOで社会課題に挑む「留職」プログラム

創業1年目は、まさに事業をゼロから立ち上げる段階をETICの方々とご一緒した感覚があります。特に社会起業塾では、自分たちが果たすべき使命について徹底的に考え抜く機会を頂き、それがいま取り組んでいる事業の礎になっていると強く思います。

メッセージ



秋元祥治さん

NPO法人 G-net 代表理事

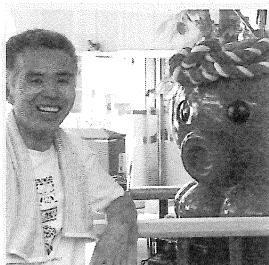
ETIC.は、僕にとってデキの悪い弟を根気よく応援してくれる兄貴分のようであり（例えば山内さんや伊藤さん）、自身からの課題に直面し自問自答する機会を迫るよう（例えば宮城さん）もある。ただ、共通して言えるのはミッションへの執念ともいうべきこだわりで、いつも敬服の思いだ。そして、田坂広志さんが「励ましキャピタル」溢れる場だと評した、コミュニティの温かさとすごさにもいつも感嘆する。ETIC.のすごさは、東京だけのものにしちゃいけない。ETIC.の皆さんとチャレコミを通じ、日本全国をオモロくチャレンジ精神溢れる若者いっぱいの社会に、共にします。



駒崎弘樹さん

NPO法人 フローレンス 代表理事

ETIC.と出会わなければ、社会を変える覚悟を問われなければ、今の僕は無かったでしょう。ETIC.のインターン生がいなければ、起業の際の彼らの力がなければ、今のフローレンスはなかったでしょう。これからも、社会のために革新を起こそうとする全ての人達とともに、ETIC.があらんことを。



阿部忠義さん

南三陸町入谷公民館 館長（兼志津川公民館長兼戸倉公民館長）

被災地の復興、少子超高齢化をはじめとし、これからの日本は、これまでにない課題山積の社会が到来します。そんな中でも社会に立ち向かう若者がETIC.のまわりにはたくさん集まっています。暗いニュースが多いなかで、それはとても頼もしい希望の光だと思います。社会問題を我がコトとして捉えられるようなヒトたちを生み出してもらいたいし、これからも困難な道をかきわけて進むETIC.を、私は応援しています。



各務茂夫さん

東京大学 教授

産学連携本部 イノベーション推進部長

アントレプレナーシップ教育は単なる起業のためのスキル教育ではなく、社会に横たわる問題を自ら発見・再定義し、解決に向けた処方箋の立案だけでなく、自らが当事者として行動し、主体的に解決を導くリーダーシップ教育の側面を持っています。ETIC.は設立以来、累計で300人を超える社会起業家を支援・輩出してきたプロフェッショナル集団であり、私どもの学生起業家教育プログラム「東京大学アントレプレナー道場」におけるETIC.との連携は、その教育の実効性を格段に高めました。若い力が社会を変える世の中を一緒につくっていきましょう！

2012年度アントレプレナーインター ンシップ・プログラム受け入れ団体

一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

NPO法人かものはしプロジェクト

特定非営利活動法人 NPOカタリバ

株式会社グローバルエージェンツ

株式会社アグリメディア

NPO法人 atamista

ケアプロ株式会社

ロアジスジャパン株式会社

NPO法人フローレンス

アクトイソディ株式会社

株式会社みんなのウェディング

株式会社コミュニティファクトリー

株式会社エヌシーネットワーク

上海ラクトコンサルティング

株式会社エフカフェ（中国法人）

株式会社ガイアックス

三和システム株式会社

株式会社ワーク・ライフバランス

株式会社フランチャイズアドバンテージ

NPO法人ブリッジフォースマイル

株式会社HASUNA

特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン

株式会社 日本技芸

スリール株式会社

マテックス株式会社

株式会社 デジサーチ アンド アドバタイジング

カフェ・カンパニー株式会社

ARアドバンストテクノロジ株式会社

一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

ベン&ジェリーズ (BEN&JERRY'S)

Venus Veil Limited (ビーナスペール)

ミヤケアジアマークティング(三宅商務信息諮詢有限公司)

有限会社良品工房

一般財団法人 教育支援グローバル基金 (ビヨンドトゥモロー)

愛知運送株式会社

株式会社出縄&カンパニー

株式会社マジカルポケット

NPO法人ルーム・トウ・リード・ジャパン

日本ブラインドサッカー協会

パートナー・ご協力企業/団体

Eyes

おいしさ、そして、いのちへ。
Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO.

UNIQLO
FAST RETAILING

Challenge Community Partners

Johnson & Johnson

GACREST

sunbridge

損保ジャパン

SVP TOKYO

Business Bank

信頼資本財团

ap bank
Fund for Japan

Benesse®

東京大学
The University of Tokyo

FITS

CK Planning

SEIBU
西武信用金庫

ACE

GE

NEC

CGP
The Japan Foundation
Center for Global Partnership

人事院
National Personnel Authority

高知大学
Kochi University

ふくしま
連携復興センター

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

CyberAgent Ventures

日本
財團
THE NIPPON FOUNDATION

安心と信頼のパートナー
共立株式会社

kao

株式会社ウインローター

福島大学
Fukushima University

文宗区

dentsu

PIXTOR

日本
吉野
GIONO

I fact-real

NEXT CO.,LTD.

東京都中小企業振興公社
The Tokyo Metropolitan Small and Medium Enterprise Development Corporation

brother
at your side

i D.E.A.

mixi

Unilever

横浜市

W!D

BARCLAYS

CORNING

Fit
Technologies

Give2Asia

globalgiving

**JAPAN
SOCIETY**

Jolkona

MINER
FOUNDATION

**Safe
Education**

SVPI
Social Venture
Partners
International

～あいさつ

NPO法人ETIC. 代表理事 宮城治男

ETIC.は93年に大学での勉強会としてスタートして以来、今年で20年を迎えました。

あらためて、長年に渡り、支えてくださったみなさまに感謝を申し上げます。

私たちにとって、心から誇りに思えるのは、数千にのぼる、多くの人たちの「0から1へ」とスタートを切る場面に立ち会えてきたことです。

起業家としてまさに誰も挑んでこなかった世界へ、新たな一步を踏み出すたくさんの現場に、目の前で立ち会ってきました。インターンに挑戦した学生が「私の人生が、ここからスタートした気がします」と語ってくれるのを、何度も耳にしました。その、自らが人生のスイッチを入れた、記念すべき現場に携われたことを、本当に誇りに思います。彼らが、そこから5年、10年の月日のなかで、起業家として、また組織のリーダーとして挑み、名を上げている姿も目の当たりにしてきました。

そして、当然ですが、それは多くの方々のお力なしにはありえなかったことです。ゼロイチの一歩を支えることは、大きなエネルギー、労力を要する一方で、何の見返りの当てもありません。にもかかわらず、驚くほどの情熱と愛をもって、若者たちのチャレンジを支えてくださる方々が、そこにいらっしゃいました。少しでも世の中をよくしたい、という思い、志から始まる繋がりが、次々に奇跡の連鎖を生んでいくこと、また支えてくださったみなさまが、ともに進化を遂げられる姿も、私は特等席で見続けてきました。20年、振り返れば気の遠くなるほど、たくさんの人生のかけがえのない場面があったことを思います。

そんな私たちが、覚悟を新たにさせて頂いたのは、2011年、3月11日の東日本大震災でした。私たちは、物資の支援、避難所の支援など、手探りでできることから動きはじめ、微力ながら緊急支援、復興支援への取組みに向き合ってまいりました。

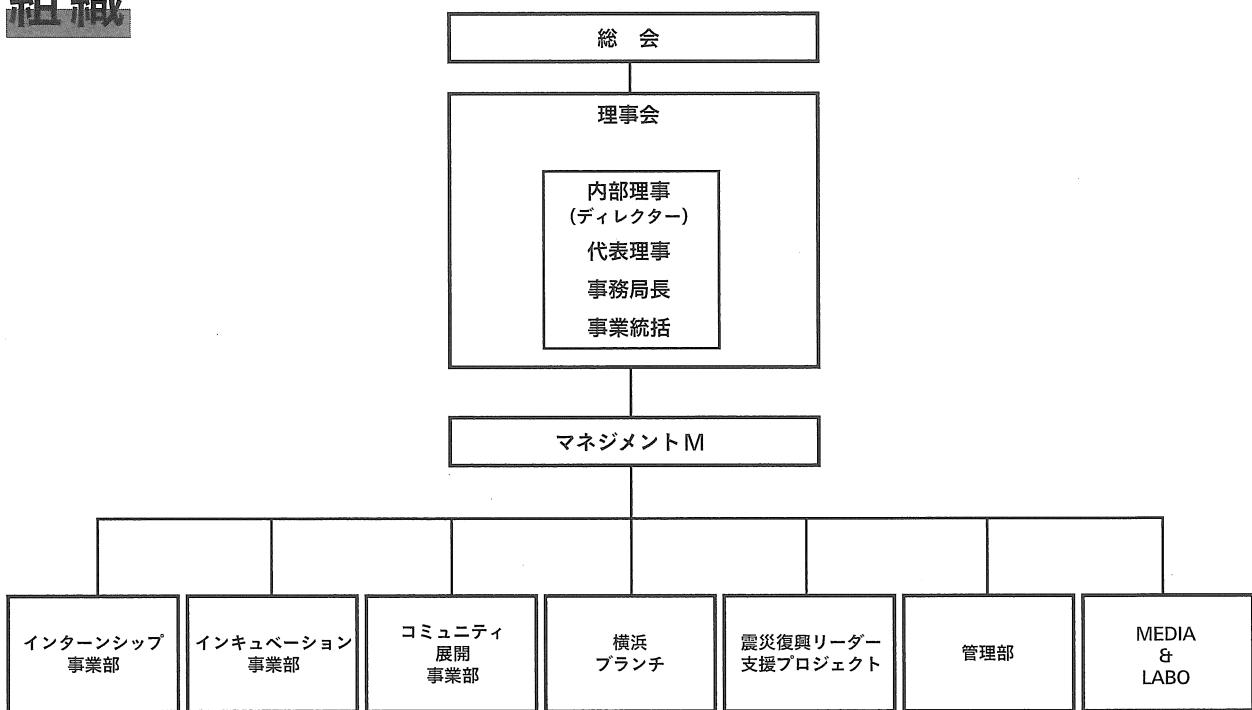
そこで実に頼もしい存在だったのが、かつて私たちの目の前でチャレンジを始めていった若者たちの活躍でした。最初に現場に飛び込んでくれ、リーダーシップを發揮してくれたのも、多くの元インターン生たちや地域づくりに挑んできた仲間の起業家たちでした。震災復興の現場に限らず、既存の政治、行政、企業等が、解を見いだせず立ち往生するなかで、若い力と積極的に協働していきたいという私たちへのアプローチも急速に増えています。3.11は大きな課題を頂いたとともに、もはや私たちが、駆け出しただけの存在ではなく、未来をつくっていくイニシアティブをとるべき、責任ある存在であることに気づかせて頂く契機でもありました。

その一方で、目に見えている変化は、氷山の一角ともいえます。「何のために生き、働くのか」、「本当に大切なものは何なのか」若い世代を中心に、価値観が大きく揺さぶられ、変化が起き始めています。ただ、そのすそ野の広い、潜在的な意識の変化に対して、実際にアクションとなって社会に顕在化していることは、まだほんのごく一部でしかありません。私は、今ここで起業家精神をもって踏み出することは、ゼロイチに留まらず、自他の思いに火をつけることで1が10になり100になり、まさに燎原の火のように広がっていくインパクトへと繋がるのではないかと思っています。またその創発が加速される仕組み、エコシステムをつくっていくことが、私たちの次のステージで果たさなければならぬ役割だとも考えています。

そしてあらためて今、理想とする自らのあり方や社会のあり方を素直に体現し、次々と創りだしていく、そんな可能性のある時代に、生まれ、生きていることの有難さを強く感じています。

私たちは、このたび20年という節目を経て、志あらたに、みなさまとともに責任ある当事者として、未来を創り出し、また次代へ受け継いでいくべく、努めてまいります。

組織



理事紹介



宮城治男



鈴木敦子



山内幸治



石川治江

NPO法人ETIC、代表理事

1972年徳島県生まれ。1993年、早稲田大学在学中に現ETICの前身「学生アントレプレナー連絡会議」を立ち上げる。2000年にNPO法人化に伴い代表理事に就任。世界経済フォーラム ベンチャーグローバル・リーダーズに選出(2011)。

理事 兼 事務局長

1971年生まれ。早稲田大学在学中に、NPO法人ETICの前身「学生アントレプレナー連絡会議」に参画。大学卒業後、自ら起業するも、97年のETICの事業化より事務局長に専任。2013年理事就任。

理事 兼 事業統括ディレクター

1976年神奈川県生まれ。アイセックにおいてインターンシップのコーディネーターに従事し、早稲田大学在学中にETICに参画。ベンチャー企業・NPOにおける長期実践型インターンシップ事業を立ち上げる。その後、事業統括ディレクターとして、全事業を統括。2013年理事就任。

理事

NPO法人ケア・センター・やわらぎ 代表理事、社会福祉法人にんじんの会 理事長、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授

1947年東京都生まれ。外資系企業の秘書をはじめ、居酒屋、喫茶店、手縫工房などさまざまな職種を経験。あるとき、車椅子で圓鉄に乗車するためには2日前から申請が必要という事実を知り、エレベーター設置運動に取り組み始める。1978年、生活支援プランティア組織を発足し、1987年には全国初24時間365日の在宅福祉サービスを提供するケア・センター「やわらぎ」を設立。1999年にNPO法人化、代表理事を務め現在に至る。従来の福祉のコンセプトである「困っている人を助ける福祉」を「当たり前に暮らすための仕組みづくり」へ変革するべく活動をしている。



孫 泰藏



松本 大



樋口哲朗

理事

MOVIDA JAPAN株式会社 代表取締役社長兼 CEO、ガンドー・オンライン・エンターテイメント株式会社 代表取締役会長 学生起業家、インターネットベンチャーの草分けとして注目される。2002年、ガンドー・オンライン・エンターテイメントを創業し、デジタルコンテンツの世界へと事業領域を広げる。その後も様々なベンチャーの創業や海外の企業との大型JVなど、ある時は創業者、ある時は経営陣の一員として、一貫してベンチャーの立ち上げに従事。2011年、「2030年までにアジア版シリコンバレーのベンチャー生態系をつくる」として、スタートアップベンチャー育成のシードアクセラレーターをMOVIDA JAPAN内に設置。

理事

マネックス証券株式会社 代表取締役社長CEO
1983年生まれ。1987年東京大学法学部卒業。ソロモン・ブラザーズ・アジア証券会社を経て、1990年ゴールドマン・サックス証券会社入社、30歳で当時同社最年少のジェネラル・パートナー就任。1999年、ソニー株式会社との共同出資でオンライン事業のマネックス証券株式会社を設立。その後、香港、アメリカのオンライン証券などを買収し、約150カ国に個人投資家顧客を持つ。2008-2013年東京証券取引所社外取締役など公職歴多数。現在、マネックスグループ代表執行役社長CEO。株式会社カカクコム社外取締役。公益財団法人国際文化会館評議員。

監事

公認会計士 樋口公認会計士事務所 代表 大学卒業後、大手監査法人に入所し、外資系を中心に監査・コンサルティング業務を提供。約20年間勤務。その間に提携先のロンドン事務所に約2年半出向。帰国後、パートナーに昇進。その後、樋口公認会計士事務所を設立して独立して現在に至る。現在、上場企業や金融機関を含む企業の社外役員、ETICを含めNPOの監事を務める。また、早稲田大学大学院において講師として勤務し、国際会計を教える。

インターンシップ事業

■事業概要

起業家型リーダーの育成を目的に、アントレプレナー・インターンシップ・プログラム（EIP）を運営しています。スタートアップ期のベンチャー経営者や社会起業家のとともに、創業志望の大学生が半年間、「期間限定の正社員」、「経営者の右腕」として事業の発展にコミットすることで、志と起業家精神を養う実践的なインターンシッププログラムです。

■ピックアップ

過去16年間で延べ1200社の創業期のベンチャー・NPOがEIPの導入により事業発展・組織発展を実現



・2800人を超える大学生が参加。

- ・卒業生のうち 150人以上が起業家や経営者として活躍
- ・卒業生の起業家が、再びインターンの受け入れ先となり、次世代の起業家予備軍を育てるという循環
- ・インターン先以外でも卒業生起業家から学べる、OBOGのメンター制度、ゼミ制度

■今年度のトピック

- ・2012年度から上海・カンボジアの日系ベンチャーやNPOに派遣を開始。

【インターン事例】

- ・世界中からビジネスエリートが集結する上海で、新たなインターネットビジネスの創造に挑む半年間。
- ・上海で日本の食文化普及に挑む。日本酒を上海・中国・アジアに広める半年間の武者修行。
- ・カンボジア・シェムリアップでの社会問題解決インターンシップ。児童買春問題解決のため最貧困層の雇用創出に挑む。



EIPの卒業生たち

【起業家】



ケアプロ株式会社
川添高志



株式会社ワーク・ライフバランス
小室淑恵

【震災復興リーダー】



株式会社フレスコ
石巻の水産業復興
花田寛明



宮城県山元町のいちご復興
稻垣亮太

【新事業創出リーダー】



NHN PlayArt株式会社
LINE開発メンバー
稻垣あゆみ



クーポンやチケットの共同
購入サイト
ポンパレ開発
前澤隆一郎

【経営陣】



株式会社みんなのウェディング
取締役
中村義之



株式会社リンクアンド
モチベーション
執行役員
麻野耕司

【地域変革リーダー】



大分豊後高田
山城屋六代目
廣田良介



株式会社 星野リゾート
沖縄県星のや竹富島 創業メンバー
芳賀正輝

EIPを通じて生み出したいリーダー像:

- ①自分の人生をみずからの意思で切り拓いていく
- ②社会に対してのビジョン、志を持っている
- ③新しい価値の創造、社会的課題解決を志向している
- ④次に続く世代の生き方・働き方のモデルになる

【次の世代のモデルになる生き方・働き方の実践者】



厚生労働省
介護休職政策をイノベーション
福田佳英



認定NPO法人フローレンス
初の新卒社員
中村優子



ヤフー株式会社
復興支援室
角田美紗季



株式会社マザーハウスに
新卒入社
岡本優子



日本GE株式会社から
NPO法人クロスフィールズに転職
大原学

ETIC.のインターンシップの特徴

ベンチャー企業・NPOのイノベーションと、次世代の育成を両立させる ETIC.の長期実践型インターンシップ

EIP	分類	一般的なインターンシップ
		見学型・研修型
長期実践型		
10名～20名前後の 少数精銳組織が中心	組織の規模	大手企業・メガベンチャーが中心
平均6ヶ月 (1年休学の学生も)	期間	1週間～1ヶ月
休暇中:フルタイム 学期中:週2.5日～週3日以上	コミット	休暇中のみ
期間限定の正社員	社内の位置付け	研修生
プロジェクトの成功・ 特定の役割の遂行・問題発見・解決	学生への期待	貪欲な学習意欲 学生ならではの意見
事業・組織の発展	受入側の目的	採用活動の一環 社会貢献
経営者・事業責任者	窓口	人事部
起業家の思考・行動特性の獲得 問題発見・解決能力の獲得	人材育成目標	職業意識の醸成 仕事への理解

インキュベーション事業

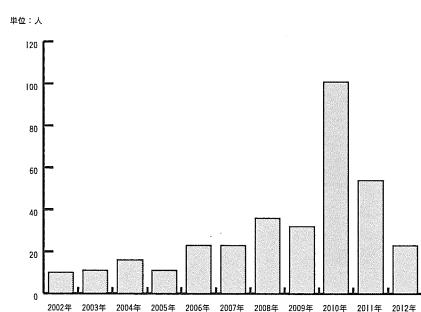
事業概要

1993年のETIC創立以来、当事業から輩出した起業家たちは、各界のリーダーとして活躍しています。特に、2002年から开始した社会起業家を目指す若者のためのプログラム「STYLE」や「社会起業塾イニシアティブ」からは、新たなビジネスモデルを通じて社会課題解决をけん引する起業家たちが産まれ続けています。

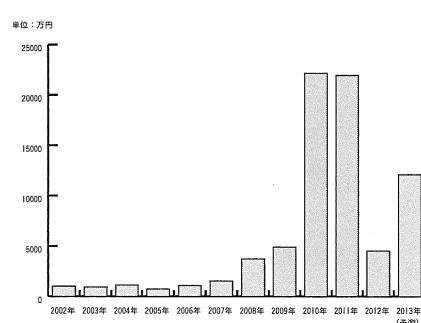
近年はこれまでのノウハウやリソースを活用し、「東海若手起業塾」(プラザ工業(株)と東海地方の5団体との協働)、「社会起業家育成アクションラーニング・プログラム」(文京区と協働)の実施や、「人事院初任者研修」の企画・運営など、新たなプログラムを展開しています。

ピックアップ

支援起業家数の年次別推移

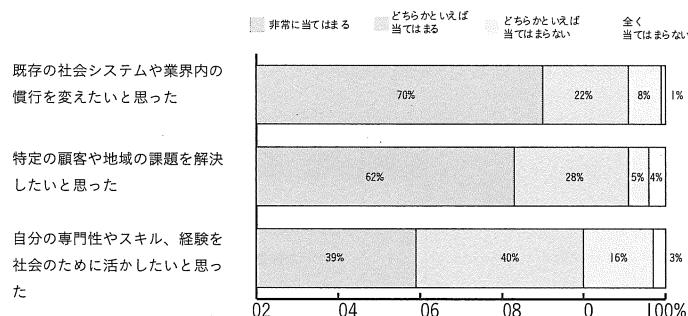


社会起業支援の支援実績



※2010年～2012年：内閣府地域社会雇用創造事業 ソーシャルベンチャー・スタートアップマーケットにて100名の社会起業家の輩出を実施、平均200万円の助成金などによる支援
※2009年～2011年：東京都委託（正式名称）ソーシャルベンチャーセンターを実施社会起業やNPO活動などに関心層に対して広く相談窓口やセミナーを実施

起業に至った理由



・自らの課題解決の向こうに、社会のシステムの変化を目指している
・起業に至った理由として、「既存の社会システムや業界内の慣習を変えたいと思った」に7割の起業家が「非常にあてはまる」と回答。
・いわゆる、「社会貢献」や「慈善」という意識だけで起業しているわけではない。

今年度のトピック

- ・社会起業塾イニシアティブは2002年のNECとの連携開始から、11年目に入りました。
- ・日本財団と西武信用金庫との連携により、NPO/社会起業家向けの融資+経営支援プログラム「西武ソーシャルビジネス成長応援融資」をスタートします。
- ・経済産業省より、新事業創出のための目利き・支援人材育成等事業を受託し、2団体を支援。
- ・東京都地域中小企業応援ファンド助成事業の地域応援ナビゲーターとして2007年から認定を受け、これまでに19団体の企業やNPOをサポートしてきました。

はじまり

■ STYLE - social venture competition

日本初の社会起業向けのビジネスプランコンテスト。コンペの期間中にメンターがサポートし、事業プランを一緒に磨きます。主な受賞者には、かものはしプロジェクトの村田早耶香さんや西粟倉・森の学校の牧大介さん、NEWVERYの山本繁さんなど。

■社会起業塾イニシアティブ (2002年～現在)

6ヶ月間の期間を設定し、若き立ち上げ期の起業家のスタートアップと共に加速していくプログラムです。集合研修やコーチング等を中心とし、事業計画立案や組織基盤整備を支援。これまでに61名の起業家が参加し、活躍しています。「事業の目的と戦略」を磨ききることで、その後の豊かな成長の土台を創ることを目指しています。

・オフィシャルパートナー:NEC、横浜市、花王株式会社

・プログラムパートナー:株式会社電通

【関連プロジェクト】イノベーションブートキャンプ、東海若手起業塾

拡大

■イノベーショングラント (2008年～現在)

ベンチャー企業とその経営者による起業家支援プログラム。各社のビジネスインフラやネットワーク・資金などを持ちより、またベンチャー企業経営者自身の「時間」を「グラント（助成金）」として提供し定期的なミーティングを開催していく中で、経営者としての視点や事業計画についてアドバイスを行ったり、社員との協働による各社の強みを活かした事業連携・創造などを行うことにより、成長の加速を支援。

■ソーシャル・ベンチャー・スタートアップマーケット (SVM)

内閣府地域社会雇用創造事業の一事業として行われ、2010・11年度の2年間で95名のスタートアップ起業家に対し、平均200万円の支援金のほか、様々な経営資源を獲得するチャンスやギャザリングなど支援の場（＝マーケット）を提供しました。

■ゴールドマン・サックス教育社会起業家・NPO支援プログラム

エコシステムへ

■アメリカン・エキスプレス・サービス・アカデミー (2011年～現在)

2011年より、サービスに特化したアカデミーとして、ソーシャルベンチャーの経営陣を対象とした2泊3日の宿泊型研修プログラム。監修に介護福祉サービスのバイオニアである、石川治江氏（NPO法人ケア・センターやわらぎ 代表理事）を迎え、ゲストとして、有機野菜宅配サービスを切り開いた、藤田和芳氏（株式会社大地を守る会 代表取締役社長）など豪華講師陣で実施

■西武ソーシャルビジネス成長応援融資 (2013年～)

NPOやソーシャルビジネス等、社会や地域の課題解決にチャレンジする組織を支援。固定金利0.1%で最大500万円の融資による資金面の支援と、先輩経営者による戦略会議、若手人材マッチング支援、ソーシャルインパクト拡大のための活動資金助成からなる経営面での支援を実施。ETIC.は、融資先事業の評価支援と、経営支援プログラムの実施を担当。日本財団「わがまち基金」プロジェクトの枠組みで3者連携で実施しています。)

■東大×文京区×ETIC. 社会起業家育成アクションラーニング・プログラム (2012年)

文京区の地域活性化及び社会起業家の育成を図ることを目的に、2012年度に文京区よりETIC.が委託を受けたプログラム。

■アントレプレナー・クロストークライブ (2012年～)

起業家精神を發揮し、新たな道を創ってきた各業界の第一人者や先輩起業家を招き、それぞれの挑戦や未来の新しい可能性について、ゲスト・参加者が語りあうトークセッション。

■スタートアップ・ブートキャンプ (2012年～)

社会的な課題を解決するビジネスや、新しい価値を生み出すアイデアはあるもののまだ具体的に動いていない、または動き始めたばかりの人を主な対象とした全2日間のプログラム。

■平成24年度新事業創出のための目利き・支援人材育成等事業 (2012年～2013年)

スタートアップ期の起業家に対し、事業立ち上げを支援/資金を助成する経済産業省によるプロジェクト（平成24年度補正予算事業）。株式会社AsMamaと、株式会社西粟倉・森の学校の2社の支援を担当。

■人事院×ETIC. (2012年～現在)

平成24年度初任行政研修の一環として行われている、「企業等訪問」について委託を受け、社会的課題に対してビジネスの手法を用いて解決をする、NPO・ソーシャルビジネスの団体を訪問し、意見交換を行うプログラムを実施。

コミュニティ展開事業

■事業概要

地域課題に挑戦する若者と、地域の様々なセクター、その双方をコーディネートする「チャレンジ・プロデューサー (CP)」。この3者で支えられる挑戦と成果を全国に広め、地域における「挑戦の生態系 (チャレンジ・コミュニティ)」の実現を目指し、実践型インターンシップによる地域づくりを進めています。



地域ベンチャー留学

■地域ベンチャー留学
学生が長期休暇を活用して3~6週間取り組む地域へのインターンシッププログラム。

■地域イノベーター養成アカデミー
(オフィシャルパートナー 日本財団)
3年以内にUJIターンを意識する若手社会人を中心とした若者が週末を利し、地域の課題やネクストステップへの企画立案をする。

■地域コーディネーター養成講座
長期実践型インターンシップを中心とした、若者活用のコーディネーション機能の重要性とそのノウハウを体感する講座プログラム。



マイプロ

■マイプロ
(オフィシャルパートナー バンクオブアメリカ・メリルリンチ、オフィシャルドナー Give2Asia)
大学生が東北地域の課題や可能性に自身のマイプロジェクトを重ね、実行するプログラム。

■好きなまちで仕事を創るin奈良
(奈良市委託事業)
奈良での起業家育成の為、土地の資源や課題を把握し事業を4ヶ月間で具体化を目指すプログラム。

■産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
(文部科学省GP事業)
インターンシップの受け入れ側である産業界のニーズに即した今後のインターンシップやキャリア教育を検討する事業のサポート。

■ピックアップ

- | | |
|---|---------------------------------------|
| ・全国の実践型インターンシップ実施者数 <u>637</u> 名 | ・全国の実践型インターンシップ受入れ企業数 約 <u>1800</u> 社 |
| ・2011~2012年度実施のソーシャルビジネスインターンシップ参加者数 <u>303</u> 名 | ・コーディネート団体 <u>33</u> 団体 |
| ・単位認定・カリキュラム作り等を通じた連携大学 <u>63</u> 大学 | ・プログラム受入れ団体 <u>43</u> 団体 |

■今年度のトピック

- ・全国30地域のコーディネート団体が一同に会するギャザリングを開催しました（9月・2月）
- ・若者が地域に入って成果の出た全国のベスト事例の発表を行う、「地域仕事づくりチャレンジ大賞2012」（2012年9月9日）開催しました！
今年は若者と地域の企業、自治体、大学を結びつけ、プロジェクトを生み出した「コーディネート機能」の重要性にスポットをあて、今後、地域で目指すべき成果・成果を生むためのプロセスやコーディネートのノウハウを学ぶことを目的として【地域仕事づくりコーディネーターサミット2013】として開催します。（2013年10月19日～20日）

■チャレンジ・プロデューサー (CP)

長期実践型インターンシップを中心に地域と若者を繋ぐ。

- 01 北海道・札幌市 | neeth株式会社
- 02 北海道・札幌市 | NPO法人北海道エンブリッジ
- 03 宮城県・仙台市 | 一般社団法人ワカツク
- 04 宮城県・仙台市 | 株式会社 出藍社
- 05 山形県・山形市 | NPOハーバランス
- 06 福島県・会津若松市 | 株式会社 明天
- 07 新潟県・新潟市 | NPO法人ヒーローズファーム
- 08 石川県・七尾市 | 株式会社御祓川
- 09 石川県・金沢市 | KAKUMA NO HIROBA
- 10 千葉県・銚子市 | 銚子市役所
- 11 東京都・渋谷区 | NPO法人 ETIC.
- 12 神奈川県・横浜市 | NPO法人 ETIC.横浜プランチ
- 13 栃木県・宇都宮市 | NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
- 14 長野県・上田市 | Loop38 (ループサンバチ)
- 15 静岡県・富士市 | NPO法人東海道・吉原宿
- 16 愛知県・名古屋市 | NPO法人アスクネット
- 17 愛知県・岡崎市 | コラボキャンバス三河
- 18 岐阜県・岐阜市 | NPO法人G-net
- 19 三重県・尾鷲市 | 尾鷲商工会議所
- 20 大阪府・大阪市 | NPO法人JAE
- 21 奈良県・奈良市 | NPO法人ならゆうし
- 31 熊本県・熊本市 | 一般社団法人フミダス
- 32 鹿児島県・鹿児島市 | マチトビラ
- 33 沖縄県・名護市 | 株式会社ルーツ

22 岡山県・岡山市 | NPO法人エリアイノベーション

23 鳥取県・鳥取市 | NPO法人学生人材バンク

24 島根県・隱岐郡海士町 | 株式会社巡の輪

25 島根県・江津市 | NPO法人てごねっと石見

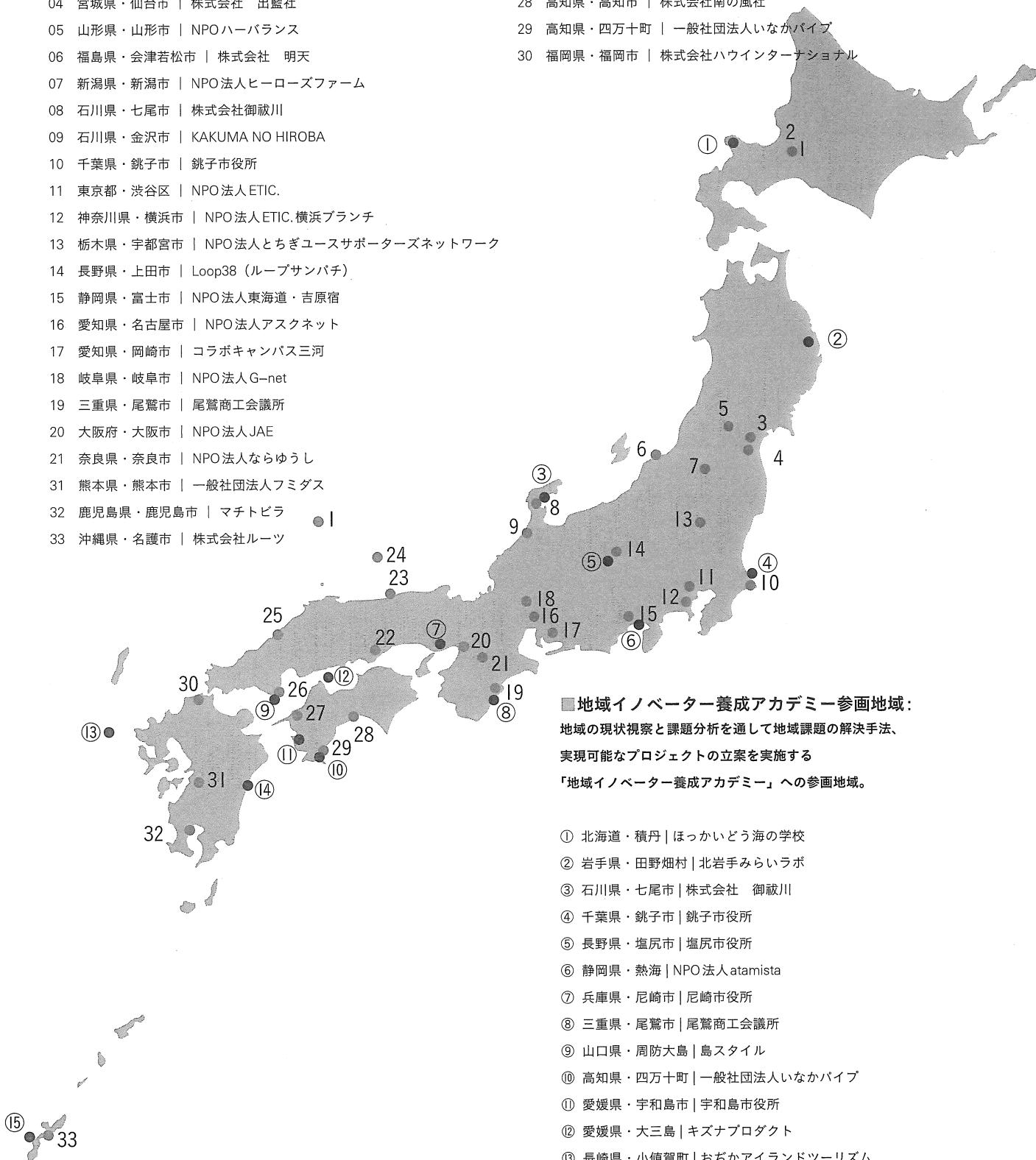
26 山口県・周防大島 | 島スタイル

27 愛媛県・松山市 | NPO法人 Eyes

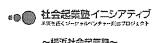
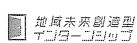
28 高知県・高知市 | 株式会社南の風社

29 高知県・四万十町 | 一般社団法人いなかパイプ

30 福岡県・福岡市 | 株式会社ハウインターナショナル



コミュニティ展開事業 / 横浜ブランチ



■事業概要

横浜市内の地域解題解決の担い手の発掘・支援・ネットワーク化等に取り組んでいます。次世代リーダーとなりうる若者を地域ぐるみで育てる環境づくりや、中小企業等の地域におけるソーシャルビジネス進出支援などを行っています。

■地域未来創造型インタークーンシップ

横浜を舞台に、企業・NPO・行政・商店街等が連携して取り組む地域課題貢献型事業に特化したインタークーンシッププログラム。2008年度に開始し、5年間で29社に117名がインタークーン。

■はじめの一歩

はじめの一歩 中小企業が社会貢献ビジネスへ踏み出すきっかけとなるような場を創りだせないかとの発想から、NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボとともに、社会貢献事業「はじめの一歩」プログラムをプロデュース。初回となる2012年度は12社24名が参加

■YOKOHAMA Changemaker's CAMP

先輩起業家やプロボノなどの地域人材と共に、地域課題解決の戦略のプラッシュアップする地域密着型起業支援プログラム。2011年度から計15名を支援し、総勢52名のメンター、起業家、民間社会人・行政職員がサポーターとして参画。

■横浜社会起業塾

地域課題解決のモデルとなるような気鋭の起業家を育てる起業支援プログラム。2009年よりスタートし、累計8名の若手起業家を選出。

■YOKOHAMA SOUP

横浜市内ソーシャルビジネスの担い手によるプレゼンテーションの会。2009年度から企画開催し、4年間で延べ460名が参加。

■ピックアップ

『横浜から、地域ソリューションを創る』5年前の活動開始以来、行政2(神奈川県、横浜市) 行政プロボノ15人、企業207社、起業家312名、社会人626名、学生3941名、大学10校、NPO62団体と出会い、組織を超えた様々な地域課題解決の動きが生まれています。

■今年度のトピック

- ・発達障害に悩むニート・フリーター向け就労サポートを行う株式会社 (Kaien(YOKOHAMA Changemaker's CAMPに参加))では、プロボノチームのリサーチ結果をもとに、2013年度春に大学生向け新サービスをスタート。プロボノメンバーのリサーチが課題解決への一歩をサポートしました。
- ・インタークーンシップ事業が、横浜の地域課題の解決を志す事業に特化した『地域未来創造型インタークーンシップ』へリニューアル。高齢者向け宅配事業立ち上げや、横浜野菜の商品開発など、地域の様々なステークホルダーを巻き込みながら、学生がプロジェクト推進役を担っています。

メディア＆ラボ事業



■ メディア

ソーシャルベンチャー求人サイト“DRIVE”スタートしました！ <http://www.etic.or.jp/drive/> 近年、ソーシャルセクターの事業の拡大により、NPOや社会的企業の雇用機会が増加し、また若者を中心に、そうした領域への参画ニーズも拡大しています。こうした機会を可視化し、起業家精神をもった20代30代が参画できるように、ソーシャルベンチャーの求人サイトを開設しました。



■ ラボ

経済産業省「平成24年度 産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査」受託
ETICのこれまでの取組を通して蓄積された知見やノウハウ、ネットワークをフルに活用し、質の高いインターンシップの普及に向けた課題の整理および提言の取りまとめを行いました。国内外の大学・企業・NPO等へのヒアリングや、有識者や関係省庁・経済団体が一同に会しての勉強会（事務局を担当）、報告書、中小企業向けのインターンシップ導入ガイドブックを作成しました。

「ゴールドマン・サックス・ギブズ コミュニティ支援プロジェクト」事業評価実施

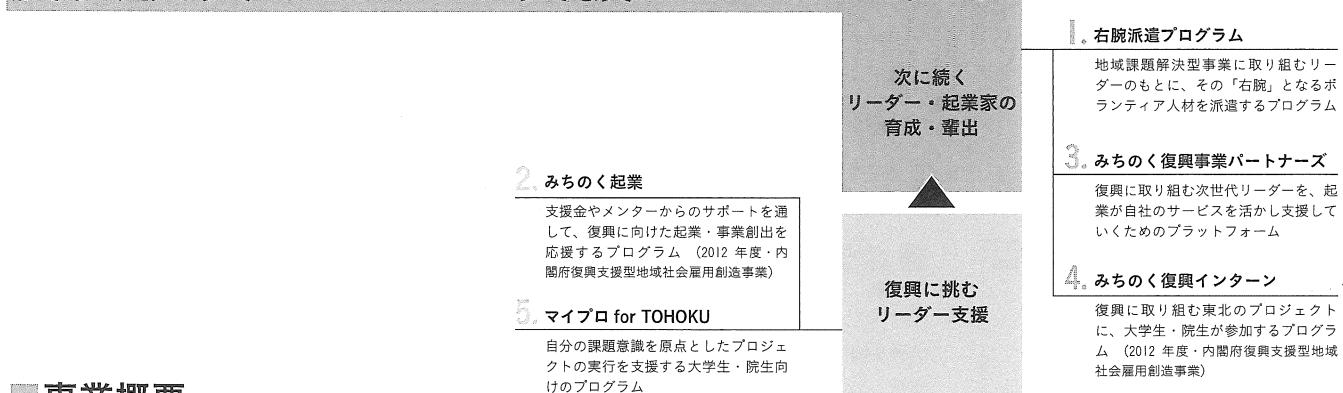
「ゴールドマン・サックス・ギブズ コミュニティ支援プログラム」事業評価実施

ゴールドマン・サックスが東京ボランティア・市民活動センターをはじめNPOとの連携で実施する「ゴールドマン・サックス・ギブズ コミュニティ支援プログラム」において、事業が生み出すインパクトを調査するための事業評価を実施しています。2012年度は、都内養護施設の大学進学率向上や、都内在住・在勤のひとり親家庭のキャリア支援について、受益者の変化を把握するための仕組みづくりと成果測定をサポートし、結果をアドバイザリー委員会で報告し、ゴールドマン・サックス本社向けレポートにまとめました。

厚生労働省『平成24年度中間的就労の起業等支援に関する検討について』の調査実施

近年増加する生活困窮者への対応として、就労支援を進めている厚生労働省からの委託事業。持続的な就労支援を提供する社会起業家、及び彼らが持続的に育成する環境を構築する方法論について、調査を実施し、政策提言としてまとめました。

震災復興リーダー支援プロジェクト



■事業概要

社会起業の創業支援や大学生のアントレプレナー・インターンシップのコーディネートを行なってきた経験をもとに、震災直後から「ETIC.震災復興リーダー支援プロジェクト」に取り組んでいます。

震災直後に開始した「右腕派遣プログラム」に加え、これまでETIC.が培ってきた起業支援や学生インターン派遣のノウハウを活かして、2012年度は新たにプログラム「みちのく起業」や、「みちのく復興インターン」事業を実施しました。また、企業の力を活かした継続的な支援が復興に重要であるとの想いから、「みちのく復興事業パートナーズ」を設立しました。

■ピックアップ

「右腕派遣」

- 右腕派遣数 151 名
- 派遣修了後の東北定着率 37%
- 派遣修了後に起業した右腕 8 名

支援プロジェクト・起業家数

- 右腕派遣先 89 プロジェクト
- 起業支援 50 件
- 大学生によるプロジェクト立ち上げ支援 13 件

その他の資源コーディネート

- インターン派遣 300 名+
- メディアやメンターの紹介、資金調達支援などのリソース紹介 100 件+

（例）損保ジャパンの社員派遣、花王の衛生管理講座、ベネッセの商品販売など、みちのく復興事業パートナーズを活かして、企業の力を活かした連携支援を進めています。

■今年度のトピック

①各被災地の住民主体の挑戦を支える「ハブ機能」の強化

- 宮城県女川町の女川復興連絡協議会。地元の水産加工会社の社長が会長となり、女川町役場とも連携して、地域再生に取り組む方々のサポート役を担っています。
- 岩手県陸前高田市の陸前高田未来商店街プロジェクト。住民が豊かに暮らし続けるために、地元のお年寄りから子どもが楽しめる居場所づくりに挑戦しています。



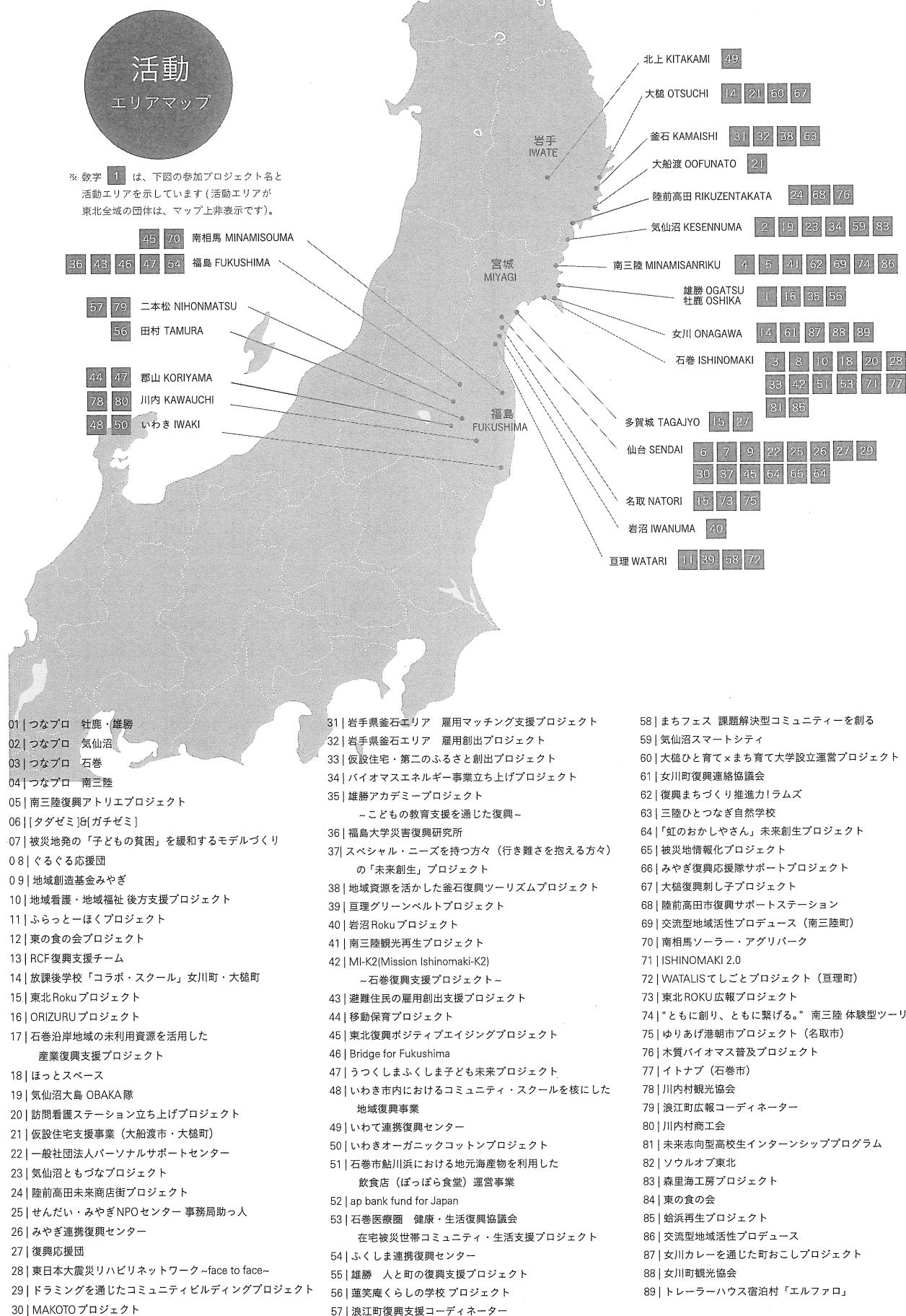
②産業やコミュニティの「復興モデル」となりうるプロジェクトの推進

- 宮城県石巻市のつむぎや。地域の未利用資源を活用した、ストーリー性の高いプロダクトの企画・開発・販売を外部人材と地域住民の協業によって行っています。
- 宮城県名取市の東北ROKUプロジェクト。約1,200坪の土地を活用した農業六次化モデルファームを手掛け、被災者・障がい者を中心に、3年間で200人の雇用創出を目指しています。



■「右腕派遣プログラム」の派遣先プロジェクト

岩手・宮城・福島の89プロジェクトへ人材を派遣



財務報告

貸借対照表

平成25年 5月 31日 現在

正味財産増減計算書

平成24年 6月 1日から平成25年 5月 31日まで

科 目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	1,931,118	
普通預金	198,805,059	
定期預金	0	
未収入金	11,247,549	
前払費用	1,188,494	
立替金	58,846	
短期貸付金	150,000	
仮払金	527,558	
流動資産合計	213,908,624	
2 固定資産		
その他の固定資産		
工具器具備品	11,172	
OA機器	0	
敷金	7,733,631	
長期前払費用	5,616,639	
関係会社出資金	600,000	
その他の固定資産合計	13,961,442	
固定資産合計	13,961,442	
資産合計	227,870,066	
II 負債の部		
1 流動負債		
短期借入金	5,025,120	
未払金	50,000	
未払消費税等	3,993,300	
前受金	41,731,749	
預り金	13,421,680	
流動負債合計	64,221,849	
1 固定負債		
固定負債合計	0	
負債合計	64,221,849	
III 正味財産の部		
正味財産	163,648,217	
(うち当期正味財産増加額)	55,138,994	
負債及び正味財産合計	227,870,066	

科 目	金額	
I 増加原因の部		
1 経常収入		
会費収入	18,251,250	
委託収入	358,248,823	
協賛金収入	34,630,736	
寄付金収入	217,042,068	
助成金収入	32,079,036	
その他収入	16,833,376	
受取利息収入	16,967	677,102,256
		677,102,256
II 減少原因の部		
1 経常費用		
役員報酬	5,900,004	
給料手当	100,197,388	
雑給	17,199,960	
役員賞与	999,996	
賞与	21,587,088	
法定福利費	19,478,482	
福利厚生費	1,590,393	
採用教育費	160,000	
外注費	63,834,588	
荷造運搬費	1,256,427	
広告宣伝費	6,056,549	
交際費	623,026	
会議費	523,534	
出張旅費	40,470,176	
交通費	8,822,286	
通信費	1,458,398	
消耗品費	229,367	
事務用品費	1,258,873	
IT機器・ソフト	1,932,451	
水道光熱費	1,989,143	
新聞図書費	314,959	
諸会費	438,250	
支払手数料	1,453,627	
地代家賃	14,288,896	
賃借料	501,389	
リース料	1,183,140	
保険料	1,943,200	
租税公課	11,227,700	
支払報酬料	54,607,454	
支援金	146,811,573	
減価償却費	896	
雑費	2,614,627	
講師料	10,671,853	
レンタル料	1,228,110	
印刷製本費	6,186,025	
会場費	7,958,144	
右腕支援金	53,870,000	
右腕外注費	10,167,500	621,035,472
2 経常外費用		
貸倒損失	927,240	
雑損失	550	927,790
当期正味財産増加額		55,138,994
前期繰越正味財産額		108,509,223
期末正味財産合計額		163,648,217

■事業部別 PL

	2012年度実績	収入	支出	損益
インターンシップ事業	15,537,412	4,644,007	10,893,405	
アントレプレナーインターンシッププログラム	15,106,800	4,512,260	10,594,540	
その他事業	430,612	131,747	298,865	
インキュベーション事業	63,800,202	30,393,301	33,406,901	
社会起業家支援	31,836,291	14,579,703	17,256,588	
調査・モデルづくり	18,182,400	11,144,559	7,037,841	
その他事業	13,781,511	4,669,039	9,112,472	
コミュニティ展開事業	37,269,321	28,066,659	9,202,662	
地域イノベーター養成アカデミー	17,676,000	14,048,411	3,627,589	
学生支援	6,688,496	4,146,244	2,542,252	
その他事業	12,904,825	9,872,004	3,032,821	
横浜事業	19,099,970	7,520,836	11,579,134	
社会起業支援・地域未来創造インターンシップ等	19,099,970	7,520,836	11,579,134	
その他	16,115,952	2,330,615	13,785,337	
講師・講演	1,671,401	123,965	1,547,436	
その他	14,444,551	2,206,650	12,237,901	
復興支援型地域社会雇用創造事業(支出は人件費・管理費除く)	294,795,032	233,112,470	61,682,562	
復興支援型地域社会雇用創造事業(インターンシップ)	127,663,705	85,226,208	42,437,497	
復興支援型地域社会雇用創造事業(起業支援)	167,156,327	147,512,709	19,643,618	
復興支援型地域社会雇用創造事業(その他)	-25,000	373,553	-398,553	
全社(共通)	1,447,205	138,904,554	-137,457,349	
人件費・管理費	1,447,205	138,904,554	-137,457,349	
全社(合計)	448,065,094	444,972,442	3,092,652	
	2012年度実績	収入	支出	損益
震災復興基金	229,037,162	176,990,820	52,046,342	
震災復興リーダー支援プロジェクト	213,179,534	110,665,616	102,513,918	
みちの復興事業パートナーズ	15,857,628	2,778,822	13,078,806	
人件費・管理費		63,546,382	-63,546,382	
前年度基金残高			72,746,712	
基金残高			124,793,054	

■ 2012 年度報告

2年間続きました「内閣府地域社会雇用創造事業」に引き続き、「復興支援型地域社会雇用創造事業」の採択をいただきました。約3億円の規模で、被災地域にフォーカスした事業となります。

海外を含む多くの皆様から、ETIC.の東日本大震災復興支援事業にご寄付をいただきました。

震災復興リーダー支援プロジェクトに加え、企業連携等活動を広げております。



特定非営利活動法人 ETIC. (エティック)

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

TEL : 03-5784-2115/FAX : 03-5784-2116

E-Mail : info@etic.or.jp

Web : <http://etic.or.jp>